



# 俳句ゆめクラブ会報

2023年1月24日

第 151 号

今年初めての句会という時になり猛烈な寒波の襲来、北国は連日の吹雪や交通の渋滞で大混乱、当会も句会当日に雪の心配もあり急遽通信句会に変更せざるを得なかった。一昨年に行った事であり何とか実行することができた。

コロナも4年目、国の扱いも五月から変わるが依然として感染は恐怖であり、注意が肝要。今回の兼題は「読初」であった。

## 梅田先生の句

まだこの世動くことなき三が日  
息白く言はねばならぬことを言ふ  
背を正し風姿花伝を読始む

## 梅田先生選

《特選》  
松過ぎや通院の日の良く晴るる 吉野利美子

(松過ぎの好天での通院、明るいなになりそうですね)  
くれなるの開き切れざる冬薔薇 浅見法子

(思いを残しは不要です)  
大寒の木々厳として遅しく 八千代幸男

(「本腰」を「厳として」に添削しました)  
読初や心洗はるみすずの詩 岡田時雄

(金子みすずの詩は誰が読んでも心が洗われますね)

男泣き白きマウスピースのラガー 浅見法子

(ラガーを下五にしたほうが良くなります)

揺るぎなき生でありたし初日の出 小林健一郎

(「ありたや」は「ありたし」としたい)

正月は東の空よりやつて来る 岩松忠子

(どこからと言えば、東の空からです)

読初や角の擦れたる虚子句集 吉野利美子

(虚子は現代俳句の祖ともいべき人です)

八十の壁のありなし読初め 八千代幸男

(八十を前にしての率直な思いですね)

純白の寒水仙の気高さや 瀬戸川公子

(凜としてと気高さや同義語なので純白としました)

老い二人早き夕餉の根深汁 長澤輝子

(長澤家では早い夕餉とのこと、わが家も同様です)

## 《入選》

綿の実の弾けて白くふくらめる 長澤輝子

お正月立づくめなる台所 鈴木幸恵

冬茜台所の窓額縁に 岩松忠子

初詣おみくじそつと結び置き 長澤輝子

かいつぶり三羽潜りてまた三羽 小林健一郎

しづけさの中なり詩集読み始む 瀬戸川公子

読初めあれこれ迷ひたるまに 岩松忠子

臘梅に引き寄せらるる香りかな 八千代幸男

日に映ゆる真白き富士や初暦 岡田時雄

十二景の未来ふくらむ初暦 吉野利美子

あけやらぬ硝子戸の外白水仙 宮島昭夫  
読初や我一人なる居間の椅子 浅見法子

初日の出ひたすら平和を願ふのみ 瀬戸川公子

読初や思はぬ世界に引き込まれ 小林健一郎

落日に光りてをりぬ枯木立 岡田時雄

老い深き慎太郎をば読始む 宮島昭夫

豪雪にパソコンをもて宿を愛へ 鈴木幸恵

引き寄せて臘梅甘き香り嗅ぐ 宮島昭夫

ときめける「山と温泉」読始め 鈴木幸恵

## 互選

松過ぎや通院の日の良く晴るる (3票) 吉野利美子

まだこの世動くことなき三が日 (3票) 梅田ひろし

咲き切れぬ思いを残し冬薔薇 (3票) 浅見法子

鳩三羽潜りて二羽に又三羽 (3票) 小林健一郎

男泣きラガーの白きマウスピース (4票) 浅見法子

十二景ふくむ未来や初暦 (3票) 吉野利美子

揺るぎ無き生でありたや初日の出 (5票) 小林健一郎

息白く言はねばならぬことを言ふ (4票) 梅田ひろし

読初や角の擦れたる虚子句集 (4票) 吉野利美子

凜として寒水仙の気高さや (3票) 瀬戸川公子

老い二人早き夕餉の根深汁 (3票) 長澤輝子

## 「決定事項・連絡事項」

・二月は吟行、大宮第一・第二公園梅林

2月28日(火)大宮公園駅改札口に10時集合

句会場所は寿能町1丁目集会所(12時開場)

句会は13時より

(小林健一郎記)